



発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 日本品質管理学会中部支部の活動について
- 2-私の提言 品質第一の人材育成こそ存在感ある成功企業
- 2-ルポルターージュ 第331回関西事業所見学会ルポ
- 3-受賞おめでとうございます/第333回中部事業所見学会ルポ
- 4-5月の入会者紹介/行事案内

## 日本品質管理学会中部支部の活動について

支部長 渡邊 浩之

ものづくり現場で今なにが起きているのか、現地・現物で確認し、ものづくり現場で役に立つ活動、産と学に実効のあがる活動を展開するため、「実践的Qの確保」をスローガンに掲げて支部活動を展開している。

最近の安心・安全を脅かす重大事故の頻発、リコールの多発、韓国や中国の追い上げなど、日本における「Qの確保」の基盤が揺るぎつつある。中部地区のものづくりは元気が良いと言われているが、同じような問題を抱えているといっても過言ではない。

このため、産と学の連携により、ものづくりのプロセスを俯瞰できる新しい品質確保の「仕組み」と、技術者の知恵をだす「仕掛け」を構築すべく、研究会活動を支部活動の基盤においている。

### ■ものづくり現場での問題点

中部地区のものづくり現場で、現在どのような問題を抱えているか、調査を行った結果、下記の二項目に集約された。

- 1) 仕事のプロセスが見えていない
  - 2) 見えていない問題の解決力の低下
- ものづくりのプロセスが「可視化(見える化)」されていないため、節目節目で問題が解決されず、どんどん先送りされているのが実情である。この状況を脱するには、「プロセス管理軸」と、個々のプロセスで目に見えていない問題をどのように発見し、解決する

かという「問題解決軸」の両面から、「仕組み」と「仕掛け」を構築しなければならない。

### ■中部支部の研究会活動

産と学が協力、現状問題の提起と解決策を創出する議論の場として、下記の研究会が活動を展開している。それぞれの研究会では、成果を研究発表会につなげるように努力をしている。

- 1) 産学連携現地現物研究会
- 2) 中部地区若手研究会
- 3) 北陸地区若手研究会
- 4) 中部医療の質管理研究会

また、解決策につながると思われる思考方法や手法については、講演会やパネル討論会の企画に組み込むように支部行事計画を進めている。

### ■「実践的Qの確保」につながる、

#### 中部支部の主な事業活動

「プロセス管理軸」と、「問題解決軸」の両面からアプローチするため、支部活動の中で展開してきた、最近の主な活動内容を下記に示す。

- 1) 「プロセス管理軸」に関わる項目
  - \* 品質は工程でつくり込む  
トヨタ自動車・佐々木氏基調講演
  - \* DFSS (Design for Six Sigma)  
ASI・田口氏講演
  - \* これからのモノ創りへの想い  
関東自動車・服部氏講演
  - \* プロセスリンク管理の実践活動  
トヨタ自動車・杉山氏事例講演
  - \* ソフト開発におけるQの確保  
富士通・木村氏事例講演

- \* 開発～製造～一貫の取り組み  
関東自動車・中塚氏研究発表
- \* 変化点管理と見える化  
朝日大学・稲吉講師研究発表
- 2) 「問題解決軸」に関わる項目
  - \* 失敗学と創造学  
東京大学・濱口教授講演
  - \* 品質・安全性の確保と未然防止  
電気通信大学・鈴木教授講演
  - \* タグチメソッドとSQCの融合  
早稲田大学・永田教授講演
  - \* 品質工学活用のポイントと事例  
コニカミノルタ・芝野氏講演
  - \* 品質工学活用による未然防止  
富士ゼロックス・立林氏事例講演
  - \* 津田方式による未然防止手法  
津田工業・都築氏事例講演
  - \* CAEとSQCを融合した最適化  
デンソー・吉野氏研究発表

以上のように、支部活動を通してものづくり現場で抱えている問題を掘り起こし、その解決方法につながる活動を目指している。今後、さらに充実した活動を展開していく予定である。

特に今年度は、中期計画「Qの確保」の折り返し点にあたるため、ものづくりのプロセスを俯瞰して「見える化」すると共に、その過程で、隠れている潜在的問題を見えるようにして見つけ(「問題発見」)、集中して「問題解決」ができる新しい品質確保の手法について、具体的なアウトラインを提示したいと考える。

## ● 私 の 提 言 ●

## 品質第一の人材育成こそ存在感ある成功企業

近畿大学 教授 岩崎 日出男



いつの時代も、品質問題は発生するものであり、パーフェクトな活動は非常に難しい。しかし、ここ10年間ほどひどい事態は過去にはなかったのではないだろうか。なぜそのような事態が頻発するのか、その原因は品質の軽視に起因していることに疑う余地はない。

「風が吹けば桶屋が儲かる」は、話の展開に意味のない単なるこじつけと受け取れるが、なかなか面白いストーリーである。しかし、「桶屋が儲けたければ、どんどん風が吹けばよい」という論理は成り立たない。論理に無理

があり、非常に飛躍している。風刺的な笑話と聞き流せばよい。

この話で、「風」＝「品質」、「桶屋」＝「企業」と置き換えれば、「品質を改善すれば企業は儲かる」と表現でき、この展開は非常に論理的である。品質が消費者にとっても生産者にとっても、その重要性を考えれば疑問の余地はない。

にもかかわらず、近年多くの企業が品質問題を頻発し、消費者や社会を裏切る結果となり、企業の存続すら危ぶまれる事態が発生している。「品質を改善する」ことは、すなわち「後工程、お客様に安心と信頼を得る」行為につながる。

品質は生産者と消費者のお互いが共通の認識として理解しあえる思想であり、共通語である。企業不祥事を発生

させている企業の経営者の多くは、品質を軽視した結果といえる。品質を軽視することは、すなわち消費者を軽視していることである。

「全ての経営者は、今一度、品質を第一とするマネジメントの重要性に気づこう」

経営トップから現場の第一線までが品質を第一とする考え方を実践できる経営体質を確立しなければならない。

私は、永年品質管理の教育と研究を通して、多くの企業のTQM活動の実践の場に参加させていただく機会に恵まれた。その間の時代の流れの中で、変わらぬものは品質の大切さと、それをお客様の視点で考えることができる人の大切さである。人を育てる努力はどの企業もそれぞれの思いで取り組んでいるが、その育てる方向が品質第一、お客様第一のベクトルにあっているかどうか重要なのである。この視点に立ったTQMを実践してきた企業は、社会での存在感を勝ち取った成功企業となっている。

### 第331回関西 事業所見学会 ルポ

#### 関西セキスイ工業(株)

2008年5月16日第331回事業所見学会が奈良県奈良市にある関西セキスイ工業(株)で開催された。

ここは全国に8つある住宅カンパニーの生産会社の一つで、関西地域の生産拠点とのことである。

今回のテーマは「CS品質の追求、お客様の声をいかしたモノづくり、家づくり」であった。

その具体的な対応は、見学コース最初の壁いっぱい貼られたQKYマップに見られる。受注1件ごとにお客様の家造りへの熱い思いや期待の言葉がご家族の写真と共に1枚のシートにまとめられている。

そのお客様の期待に応える技術基盤は多数の同社の受賞・表彰歴に見られる。デミング賞をはじめ、科学技術庁長官賞、大河内記念技術賞、TP賞（総合生産性優秀賞）、TPM優秀賞、ISO14001、ISO9001認証取得、ゼロエミッション工場実現などなどである。

それらの中で、住宅メーカーとして初めて受賞のデミング賞は同社に方針管理のしくみを定着させ、それが今日の“GS21”につながっているとのことであった。

GS21とは「GO! FRONTIER Growing Sekisui 21」の略称で、成長フロンティアの開拓、世の中で一目置かれる「プレミアムカンパニー」、際立ちの磨き上げ、自らと会社の変革などのキーワードを含む新行動宣言のもとに、中期経営ビジョンが策定され、全社経営方針、事業部長方針へと展開される。

マネジメントシステムはQMS、EMS以外に労働安全衛生のOHSAS18001も構築され、活動展開はQMSフローを主体とする中でそれぞれ環境面、安全面への取り組み課題や、見直しを取り組まれている。

具体的には2008年度上期の計画を、1枚のシート上に色分けし品質、環境、安全、5Sの取り組みなどにて識別して展開されていた。

見学コースでは、工程のそれぞれのところで「顧客の声を大切に」を目の当たりにする思いであり、まさにもの造りはお客様とのコラボレーションを実感した一日であった。柴田 倫孝（シバタ統合ISO研究所）

# 受賞おめでとうございます

## 米山高範 元会長がASQ（アメリカ品質協会）から Distinguished Service Medal を受賞！

本学会の名誉会員で会長を務められたコニカミノルタホールディングスの米山高範氏がASQ（アメリカ品質協会）から標記Distinguished Service Medalを受賞されました。同氏のASQからの受賞は1998年のIshikawa Medalについて2回目ですが、この度のDistinguished Service Medal賞は、品質活動を長期に亘り実行・推進し、その原動力として個人の生涯を通じた貢献を称えるもので、社会全体の利益のために、品質の理念・手法・技術の普及に尽力した個人もしくはASQの代わりに模範的な活動を行い、社会のた



めに持続的に尽力してきた個人に授与されるものです。

受賞にあたりASQからは、「日本における品質活動において、顕著なリーダーシップを発揮し、コニカミノルタにおいて品質の専門家として、また、経営トップとして、40年間勤務し、企業における経営実務と品質活動を融合して実践・展開した」という選定理由が寄せられております。

また、同氏は社外においては当学会の会長、日科技連理事長などを歴任されたほか、日科技連等が主催するセミナー、シンポジウム、大会、フォーラム等に数多く参画され、わが国の品質管理活動に多大な貢献をしてこられました。

なお、授賞式は去る5月5日、アメリカのヒューストン市で開催されたASQの年次大会（WCQI）にて執り行われました。日本からのこの賞の受賞は、赤尾洋二 元会長、近藤良夫 元会長に次いで3人目の受賞となりました。

受賞おめでとうございます。

### 第333回中部 事業所見学会 ルポ

#### 東海旅客鉄道(株) 浜松工場（JR東海）

さる平成20年5月22日(木)に第333回事業所見学会（中部支部第83回）が、東海旅客鉄道(株)浜松工場（JR東海）にて開催され、『新幹線メンテナンスにおける品質管理』のテーマの下29名が参加した。

同工場は大正元年に創業を始め、昭和40年からは新幹線の整備を開始し、現在では300系、700系新幹線の「全般検査」を一手に担い、40年以上車輛に関わる重大事故はゼロ件という、いわゆる安全神話を支え続けている。「全般検査」とは、120万km走行もしくは前回検査から36ヶ月経過した車輛を、12日間かけて車輪・モーター・電装品・内装などほぼ全ての部品を外し、点検・整備を行う検査で、『自動車で言うところの「車検」に近いものだ』との説明があった。見学前に、新幹線全般検査の品質管理の取組みについての概要説明があり、その中で災害などによる新幹線の遅れは平均

30秒（平成19年度）と極めて少なく、その品質の高さに驚かされた。

見学では、まだ営業運転前の最新鋭N700系の車輛見学から始まり、あらゆる部品が解体・整備されている工場内を隅々まで見せていただき、日本が誇る新幹線の安全性は、ボルト1本・配線1本に至るまで最後は作業員一人一人の基本に忠実な作業によって支えられていることを実感した。また、アクティブ・クリーン・エスカという名称で徹底した5S活動が行われており、工具・治具管理から場内清掃に至るまできめ細やかな管理がなされていたことに感銘を受けた。見学後には質疑応答と、参加者による意見交換会が行われ、メインテーマであるメンテナンスやヒューマンエラーの未然防止等について活発に議論が交わされた。

開催日は好天に恵まれ、充実した見学内容と丁寧な説明とで非常に有意義な見学会であった。見学後、帰路に新幹線を利用したが、これまで当たり前と思っていた、殆ど遅れることのないこの快適で安全な乗り物が、同社浜松工場で働く全ての方々の努力に支えられているのだと実感した。 水谷 政昭（新日本製鐵(株)）

## 2008年5月の 入会者紹介

2008年5月23日の理事会において、下記の通り正会員10名、準会員13名、賛助会員1社の入会が承認されました。

(正会員10名) ○金崎 敦 (日本ケミコン) ○日野 孝雄 (先端医療振興財団先端医療センター) ○林 章浩 (日本アイ・ビー・エム) ○鈴木 秀一 (河

北総合病院) ○黒木 英一 (日産自動車) ○福島 弘典 (NTTドコモ九州) ○Valerie McGOWN (長岡技術科学大学) ○高見 宣行 (トヨタ自動車) ○角山 正和 (積水化学工業) ○上田康正 (カネカ)

(準会員13名) ○江黒 裕昭・小山 純也・志田 翔平・中西 厚太・正木 貴裕・堀江 孝治 (東京理科大学) ○張 薇薇 (成城大学) ○勝又 昭 (明

治大学) ○原田 美沙子・藤井 健人・李 垠燦・竹中 秀・劉 婷 (東京大学)

.....  
(賛助会員1社1口) ○オムロン

.....  
正 会 員：2828名

準 会 員：77名

賛助会員：177社205口

公共会員：23口

## 行 事 案 内

### ●第87回研究発表会 (中部)

日 時：2008年8月27日(水)  
10：30～17：00 研究発表会  
17：15～19：00 懇親会  
会 場：名古屋工業大学  
定 員：100名  
参加費：会 員4,000円 (締切後4,500円)  
非会員6,000円 (締切後6,500円)  
準会員2,000円・一般学生3,000円  
懇親会：会 員・非会員 3,000円  
準会員・一般学生2,000円  
申込締切：8月20日(水)  
申込方法：中部支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

### ●第336回事業所見学会 (関西)

テーマ：関西電力(株)南港火力発電所における環境負荷の低減の取り組み  
日 時：2008年9月2日(火)13：30～16：00  
見学先：関西電力(株) 南港火力発電所  
定 員：30名  
参加費：会 員2,500円 非会員 3,500円  
準会員1,500円 一般学生2,000円  
※当日払い  
申込方法：  
同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

### ●第124回シンポジウム (本部)

テーマ：信頼性・安全性確保と未然防止  
日 時：2008年9月5日(金)10：00～17：30  
会 場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部1号館3階講堂  
定 員：150名  
参加費：会 員5,000円 (締切後5,500円)  
非会員7,000円 (締切後7,500円)  
準会員2,500円 一般学生3,500円  
申込締切：2008年8月29日(金)  
プログラム：  
講演1 「信頼性・安全性の確保への提言」  
鈴木和幸 (電気通信大学)  
講演2 「根本原因分析の勧め」  
中條武志 (中央大学)  
講演3 「未然防止への管理職の役割

### と品質管理教育」

金子龍三 (株)プロセスネットワーク  
講演4 「信頼性・安全性確保のための顧客と企業の情報共有」  
田中健次 (電気通信大学)  
事例1 永原賢造 (株)リコー  
事例2 大田晋吾 (株)小松製作所  
パネルディスカッション  
リーダー：中條武志  
パネラー：真壁 肇 他 講演者  
申込方法：  
ホームページからお申し込みできます。  
<http://www.jsqc.org/q/news/events-list.html>

### ●第16回ヤング・サマー・セミナー

日 時：2008年9月7日(日)～8日(月)  
会 場：(財)人材開発センター 富士研修所  
定 員：40名  
参加資格：正会員・準会員  
(原則として35才以下)  
参加費：無料 (交通費は自己負担)  
詳細：ホームページをご覧ください。  
問合せ先：  
[intercollegesecretary@gmail.com](mailto:intercollegesecretary@gmail.com)

### ●第122回シンポジウム (関西)

テーマ：食の安全確保と品質管理一食に関する事故や取組から学ぶこと  
日 時：2008年9月9日(火)13：00～17：30  
会 場：天満研修センター 4階405号室  
参加費：会 員3,000円 非会員 4,000円  
準会員1,500円 一般学生2,000円  
※当日払い  
プログラム：  
基調講演 「食の安全はTQMによって保証される」  
米虫節夫氏 (近畿大学)  
講演1 「食の安全確保について」  
関 将弘氏 (近畿農政局)  
講演2 「食品の安全・安心の土台は食品衛生7S (整理・整頓・清掃・洗浄・殺菌・躰・清潔)」  
角野久史氏  
(株)角野品質管理研究所  
講演3 「イオンプライベートブラン

ドの安全・安心への取り組み」  
仲谷正員氏 (イオン(株))

申込方法：  
同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。

### ●第88回研究発表会 (関西)

※研究発表会優秀発表賞、最優秀発表賞を創設  
日 時：2008年9月19日(金)  
会 場：大阪・中央電気倶楽部  
特別講演：データマネジメントに関する話題  
上坂浩之氏 (日本イーライリリー(株))  
申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、関西支部事務局までお申し込みください。  
詳細：ホームページをご覧ください。  
<http://www.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/~mkuroki/88meeting.html>

### ●第38回年次大会・東京工業大学(本部)発表募集中!

日 時：2008年11月8日(土)  
(1)申込期限  
発表申込締切：9月1日(月)  
予稿原稿締切：10月1日(水)必着  
参加申込締切：10月29日(水)  
(2)研究発表・事例発表の申込方法  
7月送付の発表申込要領をご覧ください。  
(3)参加申込  
同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

### 行 事 申 込 先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)  
本 部：TEL 03-5378-1506  
FAX 03-5378-1507  
E-mail：apply@jsqc.org  
中部支部：TEL 052-221-8318  
FAX 052-203-4806  
E-mail：nagoya51@jsa.or.jp  
関西支部：TEL 06-6341-4627  
FAX 06-6341-4615  
E-mail：kansai@jsqc.org